

# 小須戸公民館報

発行 小須戸町中央公民館  
〒956-0101  
新潟県中蒲原郡小須戸町  
大字小須戸117番地  
TEL (0250) 38-2234  
FAX (0250) 38-5210  
編集 公民館報編集委員会



## 2000年 新年あけましておめでとうございます 小須戸町民憲章の心から



小須戸町教育長 高橋 謙 司

新しい年を迎え、町民の皆様には益々ご健勝のことと、心からお慶び申し上げます。

昭和五十五年十月二十九日、町制九十周年記念を期して、小須戸町民憲章が制定され、広く町民に発表されました。それから二十年を経過した今、西暦二〇〇〇年の年明けを機に、もう一度制定当時の町民憲章にこめられた精神を思いおこし、郷土小須戸町の輝く未来像の実現を目指して、町民一人ひとりがそれぞれの立場での誓いを新たにしていきたいものと考えます。

一、恵まれた自然に感謝し、花と緑に愛情を  
「遙かに霊峰弥彦を仰ぎ、悠久の流れ信濃川に育まれ、」の原文の如く、小須戸町は近隣きつての自然に恵まれた町です。この中で育ち、生きる幸せに感謝し、その優れた環境を守り育てながら、「花と緑」の郷土を愛し、花のように美しく、緑のように清らかな心を育み合いたいと思います。

一、鍛えて健やかな心と身体を  
健康は一生の財産であり、豊かな心、ものにすなおに感動する心も、健全な生活と、毎日の家庭生活の中における家族の温かな和やかな心の結びつきがあつてこそ、はじめて育っていくものであります。

一、豊かな教養と高い文化を  
生涯学習の重要性と、郷土の伝統・文化の継承・保存・育成の重要性がうたわれています。全町民の英知を結集して、みんなの幸せはみんなで築いていかなければなりません。

一、結ぶ力と助け合いの心を  
まちづくりの基本理念とし

て「人間尊重」があります。町民一人ひとりが小須戸町民としての自覚のもと地域の連帯を基調とした「あたたかな心のふれ合う」まちづくりに向けて、福祉の充実と奉仕の精神の尊さをうたっています。

一、仕事に励み生活に明るさを  
豊かで明るく、うるおいのあるまちづくりの原動力は、町の産業、経済の振興・発展がまず第一と考えます。

そのためには、町民一人ひとりが働くことに喜びと誇りを持ち、町民全員が行政と一体となつて、それぞれの立場での役割をしっかりと果たしていくことが大切でしょう。

小須戸町は昔からいくつかの集落が合体して町を形成してきております。

そのために、町内ごと、地域ごとの結びつきは非常に固い反面、ともするとその中だけに閉じこもり、広くほかの世界に目が向かないでしまし、やすい心配もあります。新しい住宅が建ち、他地域からの人たちが大勢入ってきておられます。

私たちにとって、自分の郷土を愛し、守り、育てることは実に尊いことでもあります。しかし、それが偏狭な形になつては愛する郷土も発展できません。広くよその世界のこととも視野にとり入れ、郷土小須戸町を育てていく榮養にすることが大切と考えます。

人間は、より多くの人びととのかわり合いの中で、生存の歴史を進めてきました。家族や地域の人びととのかわり、更には、全人類とのかわり合いの中に今日の私たちの生存があるわけです。言いかえれば、地球上の人間すべてが、みんな仲間であるといえます。

まちの悲しみとして受けとめ、また喜びをわが喜びとして感じとる心こそ、すさまじく現代社会において非常に大切なことと考えます。

「みんな仲間である」という人類愛が基盤にあつてこそ、はじめて住みよいくらしの実現が可能になるわけです。

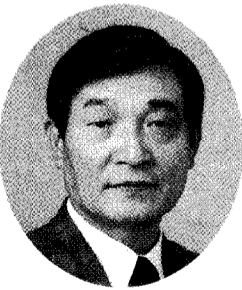
今、小須戸町は明るい希望に満ちたまちづくりの出発点に立っています。小須戸町の明るい未来像を胸に、その実現に尽すのは私たち町民一人ひとりなのであります。

家庭教育をはじめとして、すぐれた町民を養う心構えが大切です。親は子に、祖父母は孫に、この郷土のすぐれた歴史や、風土や、先人の足あとを語り継ぎましょう。

その一方、日本や世界の歩みとひきくらべながら郷土を深く認識させ、幼少のうちから確かな「町民意識」を育てていかなければなりません。自分さえよければいい、自分の町内さえよければいい、などという考えでなく、町民総ぐるみで、小須戸町民憲章にこめられた精神を、守り抜き買っていくようではありませぬか。

### 「11000年の願」

館長 佐藤 貞夫



皆様をさわやかなあいさつと笑顔でお迎えます。そして、諸活動の充実発展と「やろてば学習」の広まりに一丸となつて取り組みます。中央公民館は、明るい話題の発信源になりたいと考えています。

### 公民館運営審議会

議長 小柳元助  
副議長 堀川嘉子  
委員 樋浦卓昭  
阿部英夫  
池田忠雄  
木村弘一  
川瀬幸衛  
森田恒夫  
古田多夫  
本多恒夫  
八木圭子  
皆川イミ子  
関口文子  
藤田悠二  
高橋勲

### 恭賀新年 本年もよろしくお願ひ申し上げます

中央公民館長 佐藤 貞夫

小須戸分館長 榮森 靖生  
矢代田分館長 平間 安雄  
横水分館長 野崎 迪夫  
新保分館長 高山 光栄

### 館報編集委員会

委員長 馬場高志  
委員 渡辺 怜子  
古川 満子  
吉田 正信  
富重 雍子

### 図書委員会

委員長 内山和男  
委員 森田 義昭  
村山 睦子  
田山 迪子  
保科 富士子

# 大盛況!! 公民館のお正月教室

## そば打ち道場



最近、趣味と実益をかねて自分でそばやうどんを打って味わいたいという人が増えているそうです。

公民館では、大晦日の年越しそばに合わせて、初心者むけに「そば打ち道場」を開きました。

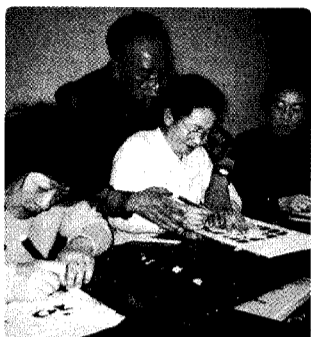
十二月十四日の夜に公民館の調理室で行う予定が、案の定、参加者が多く部屋を替えての講習となりました。

講師は、三川村の教育委員会職員波多野先生でした。

参加者の中には、親子やご夫婦で参加されている方もおられて、とても和気あいあいとした講習会でした。

その後も、そば粉を斡旋してもらい、自宅で挑戦された方もおられたようです。

## 正月飾り切り絵教室



白紙を切って赤い紙の上に乗せるとおめでたい切り絵の正月飾りができあがります。

公民館では「あなたの手で正月を演出してみませんか」ということで、十一月と十二月の二回コースで教室を開催しました。

指導者は、県下でも「切り絵」で活発な活動をされている、「分水切り絵村」の会員の方たちで毎回八名もの指導者から丁寧に教えてもらいました。

「切り絵」は、版画のように、とても奥の深い芸術であると聞いております。皆さんが上達されて、町でも「切り絵展」が開けるように成ればと、期待しております。

## 12月のナイスショット



15日 家庭教育学級「つくしんぼ」クリスマスパーティで、サンタさんからプレゼントをもらって喜ぶ子ども達。



24日 家庭教育学級「あすなろっ子広場」クリスマスケーキを作りました。子ども達もしっかりお手伝い。



26日 「マジックショーと読み聞かせのつどい」本格的なマジックにビックリ、ドッキリ。

### ★町民スキー教室

日時 二月十九日(土)から二十日(日)

会場 須原スキー場

定員 二十名(小学生は保護者同伴)

参加費 大人 七、〇〇〇円  
子供 六、五〇〇円

申込〆切 二月九日(土)まで  
参加費を添えて中央公民館へ

主催 町教育委員会・中央公民館  
主管 町体育指導委員協議会

### 図書だより

#### 中央公民館

〇てのひらの闇 藤原 伊織

〇かりそめ 渡辺 淳一

〇国民の歴史 西尾 幹二

〇恋愛動物占い 動物占いプロジェクト

〇楽毅 宮城谷昌光

〇毛沢東秘録(上・下) 産経新聞

〇NHKニッポンときめき歴史館 日本放送出版

〇アメリカの経済支配者たち 広瀬 隆

〇経済のニュースが面白いほどわかる本 細野 真宏

〇「買ってはいけない」は買ってはいけない 夏目書房

〇痛快コンピュータ学 坂村 健

〇倚りかからず 茨木のり子

〇されど、わが祖国 落合 信彦

〇ゾマホンのほん ゾマホン・ルフィン

### ふれあい電話相談

教育相談をはじめ、いろいろな電話相談に応じます。

二月の相談日 四日(金)・十八日(金)

二十五日(金)

受付時間 午後一時～五時

電話番号 三八一三〇〇

〇お名前を言わなくていいです。

〇秘密は、固く守ります。

### VOICE & VOICES

## 私は思う VOICES

### 私には考える VOICES

あるお便り 「小須戸弁あれこれ」

公民館には、いつもお世話になっております。この度の「小須戸弁あれこれ」ほんにおもったかたね。小須戸もんになって三十五年も過ぎたろも、珍しい言葉、馴染みのある言葉などいっぱいありました。

方言であっても、小須戸もんの喋り方には発音が丸みがあつてやんわりと耳に入り優しさが感じられます。

若い頃は「雨(尻上がり)が降って来た」「ありがとう(尻上がり)ございます。」など、アクセントが気になりましたが今はだつてえ気になりません。

今日も冬風に恵まれ、「こうこ」を漬けたらばつかしです。たつた三十本ばかりの「だえこん」られも、にん度もさん度も腰を伸ばして自分の「だつちあかなえ」なつたもんだと老いを実感しました。

言葉とは不思議なもので、いくつになつても生まれ育つた土地の言葉は忘れていません。兄弟や旧友と電話で話していると、いつの間にか自然に昔の土地の言葉になつていきます。

この川を渡れば、この山を越えれば、皆それぞれ土地の言葉があり、故郷の温もりがあるように、これからの言葉も耳で聴く生活を大切にしたいと思つていきます。

※お喋りは、元・余所もん…でした。

一九九九・一二・九

てみようと思ひ決心いたしました。各種の講演会への参加を初め、開放講座での学習、幾つかのコースへの入団、クラシック音楽の鑑賞等、各分野に出向き学習しております。

在職中は時間もなく、好きなことをやってみることができませんでしたが、今こうしていろんな所に出向き、勉強できることに感謝と喜びを見出しています。

「人生死ぬまで勉強」と心掛けております。

本多絹子さん



## 生涯学習への挑戦

只今第二の人生に生涯学習へ挑戦しています。今の時代はテンポが早く、新語や英語が沢山使われるなど、私としてはこの時代についていけないような気がいたしました。

そこで、このままではいられないという気持ちから、生涯学習に挑戦し

蒸し上がったもち米をつきつきと保護者の方が運ぶ。体育館に用意された十個の臼からゆげがあがる。炊き上がったお米のにおいがほのかに漂う。もち米は五年生が社会科の体験学習として地域の田んぼをお借りして収穫したものだ。



た。保護者や地域のお年寄りとともに活動することによって、豊かな体験をすることができた。おなかほもちろん、気持ちも満足感でいっぱいになった一日であった。

## シリーズ 「今、子どもたちは」 (41)

### 全校もちつき大会

矢代田小学校